

地域の足 確保へ

代替バス路線を計画中です

JRバス東北(株)から今年の2月、管内バス路線の廃止の意向が示されました。これにより、市は地域の足を確保するため、代替運行路線を計画中です。路線は現行のJR路線を基本に、市民バスなどを統合するなどして利便性の向上を図ります。本号では、計画路線数や主な経路についてお知らせします。



通院する高齢者にとってバスは欠かせない「命の足」です

新しいバス路線の主な運行計画 (案)

| 路線名 | 主な運行経路 | 備考 |
|--------|---------------------------|----------------------------|
| 侍浜線 | 侍浜駅⇔支所⇔北野⇔桑畑 久慈駅⇔支所⇔桑畑 | 朝はJR八戸線に接続。 昼は八木線に代わり運行 |
| 侍浜北線 | 久慈駅⇔県立病院⇔桑畑 | 週2日往復 (新路線) |
| 侍浜南線 | 久慈駅⇔県立病院⇔半崎⇔北野 | 週3日往復 (新路線) |
| 大野線 | 久慈駅⇔県立病院⇔陸中大野 | 洋野町と共同運行。現行通り |
| 川代線 | 久慈駅⇔県立病院⇔陸中川代 | 久慈駅まで延伸 (夏井橋乗り継ぎなし) |
| 川崎町循環線 | 久慈駅⇔県立病院⇔久慈駅 | 現行路線と同じ |
| 新町循環線 | 久慈駅⇔津内口⇔久慈駅 | 新町循環線と津内口線を同一路線化 |
| 根井線 | 県立病院⇔中心市街地⇔根井 | 月2回運行 (新路線) |
| 滝線 | 陸中滝⇔久慈駅 | 現行路線と同じ |
| 山形線 | 久慈駅⇔陸中山形 | JR小国線の久慈駅—陸中山形間を改称※ |
| 日吉循環線 | 久慈駅⇔日吉⇔久慈駅 | 路線変更 (移転後の長内中経由) |
| 山根線 | 山根⇔久慈駅⇔県立病院 | 県立病院まで延伸 (岩瀬張での乗り継ぎなし) |
| 久慈海岸線 | 久慈駅⇔宇部⇔野田⇔久慈駅 | 現行通り |

※現行小国線の陸中山形—陸中小国間は患者輸送バスを運行
この運行計画(案)は変更になることがあります

新路線どう変わる? バスQ&A

Q. 来年4月になると、今運行しているバス路線は、なくなるのですか?

A. JRバスの運行は廃止されますが、市で民間バス事業者に委託するなどして運行を継続します。

Q. 運行の基本方針は?

A. 現行のバス運行を基本に、市民バスと福祉バスを統合して、利便性を高めて地域住民の足を確保します。なお、スクールバスと患者輸送バスは、一般の方も利用できます。

Q. 新しいバス路線の利便性は?

A. 例えば、べっぴんの湯へ行くには、今まではJRバスから市民バスへの乗り換えが必要でしたが、4月からは乗り換えずに行くことができるようになります。また、今までと路線や運行時間を変更し、鉄道などとの接続が便利になります。ただし、これまで福祉バスで無料運行していた区間も路線バスとなり運賃を負担していただきます。

Q. 運行ダイヤや運賃はいつ決まりますか?

A. 本年度中に決定し、時刻表などを全戸配布する予定です。

JRバス路線が廃止されます

今年の2月2日、JRバス東北(株)では沿線市町村に対し、久慈管内のバス路線を廃止したい—との意向を示しました。3月27日には岩手県生活交通対策協議会に対し、路線廃止の申し出を行いました。

市はこれに対して、4月24日と6月29日に行われた同協議会久慈地方分科会において、廃止撤回を要望しましたが、撤回することはない—との回答でした。9月末には道路運送法(15条の2)の規定による路線廃止の届け出が国土交通大臣に提出されました。これにより、平成20年3月31日

として新路線バスに組み入れ。利便性を高めるため、県立病院や中心市街地に建設中の「風の館」「土の館」への乗り入れ、JR八戸線などの交通機関との連携の強化—などを検討しています。

運賃は、現行のJRバス運賃を基本に設定します。

【13路線】①侍浜線②侍浜北線③侍浜南線④大野線⑤川代

をもって管内7路線のJRバスは廃止となります。(盛岡市への「白樺号」と二戸市への「スワロー号」は、引き続き運行されます)

市は、通学・通院など市民の足を確保するため、新たなバス路線を構築するため計画を進めています。

利便を図るため 新しいバス路線を計画中

新しいバス路線は、従来のJRバス路線を基本に、市民バス、福祉バスの路線を13路線に統合し、委託するなどして運行します(今まで無料で運行していた福祉バスは「侍浜北線」「侍浜南線」「根井線」

線⑥川崎町循環線⑦新町循環線⑧根井線⑨滝線⑩山形線⑪日吉循環線⑫山根線⑬久慈海岸線

新路線の維持には皆さんの 利用が欠かせません

自家用車の普及、少子高齢化—などにより市内のバス利用者が大きく減少しています。平成13年度には約54万人が利用していましたが、17年度には、約35万人にまで減少しています。(資料||JRバス東北(株)久慈営業所)

バスなどの公共交通機関を利用する方の大半は、自家用車を持たないか、運転できない児童生徒や高齢者。市は、利用者の足を確保するため、民間バス事業者へ運行を委託し、路線を確保していきます。3年後には、5人未満の乗車路線は存続・廃止を含めて、あり方を見直します。

今、運転できるあなたやわたしにとっても、人ごとではない問題。公共交通機関の存続にはわたしたち市民の利用が不可欠です。久慈市に必要な公共交通の姿を一緒に考えていきましょう。

